

第 51 期日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修報告書

広島市立大学 国際学部 3 年 横山琉夏

2025 年 4 月

México Mágico

5 月に入り、ついに帰国まで 3 か月を切りました。日本のご飯が恋しく、早く帰りたい気持ちもある一方で、メキシコを離れるのが名残惜しく感じる自分もいます。メキシコで過ごす時間が増えるほど、メキシコのすばらしさや温かさをさらに実感し、メキシコの虜になってしまっています。

今回は、3 月後半と 4 月中旬にあった semana santa という 1 週間の休み期間の旅行での経験や体感したことについて、報告していきます。

Monterrey でメキシコ来て初の野球観戦

モンテレイはメキシコの北東部にあるヌエボ・レオン州の州都で、産業や経済の中心地として知られており、川崎重工やパナソニックなど多くの日本企業や外資企業が進出している地域です。

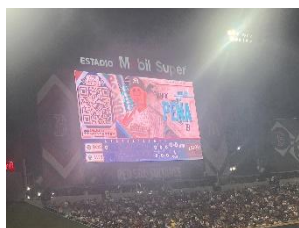
3 月後半、モンテレイで地元の野球チーム「Sultanes」とアメリカ・メジャーリーグの「Red Sox」が親善試合を行いました。私は、Red Sox に所属する吉田正尚選手が出場するかもしれないという期待を込め、現地まで観戦に行きました。しかし残念ながら、吉田選手は直前で故障者リスト（IL）入りしてしまい、プレーを見ることはできませんでした。それでも、試合前の練習中に Chapman 選手の投球練習を間近で見ることができ、さらに 2 人の選手からサインをもらい、直接ボールを手渡ししてもらおうという貴重な体験をすることができました。



試合中には、日本のプロ野球との違いを多く感じました。特に印象的だったのは、攻守交代の時間に観客を楽しませる演出が多く取り入れられていたことです。たとえば、Karaoke Cam や Dog Cam、Kiss Cam などがあり、観客がスクリーンに映されて盛り上が

ります。Kiss Cam の時間には、実際にプロポーズをして成功したカップルがおり、スタジアム全体が大きな歓声に包まれました。

また、試合中にもかかわらず、観客が自由なタイミングでウェーブを始めていました。試合に夢中でウェーブに気づかず、流れを止めてしまった人たちがブーイングを受けており、真剣に観戦している側がブーイング受けるのか、と不思議な感覚になりました。



元カープの Peña 選手が Sultanes で活躍していました。



野球殿堂博物館
メキシコ野球の歴史を知ることができました。

メキシコのセマナサンタ (Semana Santa)

セマナサンタは、スペイン語で「聖週間」を意味し、メキシコではイースター（復活祭）に向けた一週間（2025 年は 4 月 13 日～20 日）のことを指します。これは、イエス・キリストの受難、死、復活を記念する、カトリック信仰の深いメキシコでは多くの人々にとって特別な期間です。この時期には多くの学校や会社が休暇となり、人々は故郷に帰省したり、観光地に旅行したりします。各地で宗教行事やパレードが行われ、特に「ヴィア・クルシス（十字架の道行き）」と呼ばれるイエスの受難を再現した行列が有名です。

Taxco で感じた人の温かさ

タスコは、メキシコ中南部ゲレロ州にある美しい山間の町で、銀細工の伝統で有名です。白い壁の家々と石畳の街並みが特徴的で、「メキシコで最も美しい町のひとつ」として観光客にも人気があります。

11 年前、家族でタスコを訪れた際に購入したシルバーリングは、今も錆びることなく使えているので、新しいアクセサリを購入したいと思い、再びタスコを訪れました。すでにタスコを訪れた友人から「偽物もあるから気をつけて」と言われていたため、ホテルのスタッフにおすすめの店を尋ねると、知り合いを紹介してもらえました。場所が少し複雑でしたが、道中で道を尋ねるたびに地元の人たちが親切に教えてくれたおかげで、無事たどり着くことができました。



また、カフェで写真撮影を手伝ったメキシコ人家族が、スペイン語を勉強している私たちに興味を持ってくれ、タスコの歴史や見どころについてたくさん教えてくれました。帰り際には「次に来るときは連絡して。泊めてあげるよ」と連絡先まで渡してくれるほど、温かく接してくれました。そのほかにも、夜景で有名な場所で日が暮れるのを待っていた時、地元のおじいさんに話しかけられ、メキシコの文化や歴史について2時間ほど語り合いました。また、タスコ名物の「chivo（ヤギ肉）」のタコスを食べに行ったお店では、店主が「メキシコに来てくれてうれしい」と言って、chivoのスープをサービスしてくれるなど、出会う人々の温かさに何度も感動しました。



他の都市と比べてアジア人をあまり見かけなかったこともあり、地元の人々から見ても私たちは珍しかったのかもしれませんが、どこに行ってもとても親切に接してくれました。タスコという町の美しさだけでなく、人の温かさにも心を打たれ、私はこの町が大好きになりました。そして、スペイン語で会話ができることをみんなが喜んでくれたことをきっかけに、「もっとスペイン語を話せるようになりたい」と強く思いました。



モレ・ロサ（Mole Rosa）

タスコの郷土料理のピンクのモレ。一般的にモレは黒っぽい色ですが、モレ・ロサはピーツや赤ワインでピンク色に染められています。

11年ぶりの Aguascalientes

アグアスカリエンテスは、メキシコ中部に位置する州およびその州都で、治安が比較的良好く、産業や農業が発展している都市です。

セマナサンタの最後の週末から、毎年春に開催される国内最大級の祭典「フェリア・デ・サン・マルコス（Feria de San Marcos）」が開催されていました。このフェリアは、19世紀初頭から農業と家畜の見本市として始まりました。現在では、伝統と現代文化が融合した総合的なイベントとなっており、地元住民だけでなく、国内外から数百万人の観光客が訪れています。今年の招待国は日本ということで、今回の



留学中に一度は訪れたいと思っていたアグアスカリエンテスにこのタイミングで行くことにしました。フェリアの期間は通常4月から5月の約3週間（2025年は4月19日から5月11日）にわたり、その中心となるのが「サン・マルコス公園（Jardín de San Marcos）」です。この期間中、闘牛、パレード、アート展示など様々な催しで活気にあふれています。



サン・マルコス公園の前では、1000年以上前から続く雨乞いの儀式で、2009年に無形文化遺産にも登録された「ボラドーレスの儀式（Danza de los Voladores）」が行われていました。4～5人の男性が民族衣装を身に纏い、高さ30メートルを超える棒を上っていきます。柱の先端にはロープが置かれており、それを体に巻き付けると、儀式が本格的に始まります。笛や太鼓の音に合わせて柱から逆さまになって飛び立ち、ぐるぐると回りながら降りてきます。

また、この期間、イスラ・サン・マルコス（Isla San Marcos）には移動式遊園地が来ています。メキシコでは、イベントの際、移動式遊園地が来ることが多くあります。留学期間で初めて、移動式遊園地のアトラクションに乗りました。観覧車は日本の数倍回転スピードが速く、少し怖かったです。移動式ということもあり、少し不安もありましたが、思っていたよりもクオリティが高く、とても楽しかったです。



11年ぶりのアグアスカリエンテスは、少し変わっていた部分もありましたが、住んでいた家や通っていた学校は変わっておらず、とても懐かしい気持ちになりました。また、この留学期間にメキシコ最大級の祭典に行くことができ、とても貴重な体験ができました。

おわりに

現在、4つ目のセメスターが終わり、セメスター間にある10日間の休み期間です。次のセメスターで CEPE の授業は最後となり、少し寂しい気持ちもありますが、最後までしっかりスペイン語やメキシコの文化を学びたいです。



4 月の México Mágico

タスコで撮れたジブリの世界のような写真

タスコには歩いて登るにしんどすぎる坂がたくさんありました。

それが理由かはわかりませんが、多くの人たちがバギーに乗って移動していました。